

遅播き栽培に適した飼料用トウモロコシ「P3898」の栽培特性

「P3898」は収量性, 耐倒伏性, 耐病性等に優れ自給飼料の増産が可能

背景・目的

- ・県内の飼料用トウモロコシ作付面積は約1,590haで, 春夏作面積の約22%を占める重要な飼料作物
- ・自給飼料の増産に向け, 収量性, 耐倒伏性及び耐病性に優れた優良品種の選定・普及が必要
- ・飼料用トウモロコシには多くの品種があり, 播種時期により春播き, 遅播き及び夏播きに区分されており, 本県に適した区分ごとの優良品種の選定が必要

成果の内容

「P3898」の特性

県奨励品種「スノーデントおとは」と比較すると,

- ◎ 稈長は20cm高く, 乾物収量は113%
- ◎ 耐倒伏性に優れる
- ◎ 耐病性は同程度



「P3898」の草姿

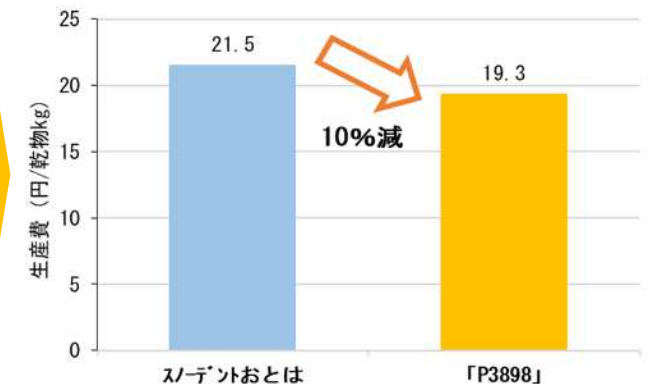
表 「P3898」の栽培特性(R元～R3年度遅播き, 試験地: 県畜産試験場)

品種名	発芽 良否	初期 生育	稈長 cm	着雌 穂高 cm	倒伏 %	折損 %	病害程度			乾物収量			
							南方 さび病 1～9基	ごま葉 枯病 1～9基	すす 紋病 1～9基	乾茎 葉重 kg/a	乾雌 穂重 kg/a	乾総重 kg/a	乾物総重の 対県奨励
P3898 (RM130)	1～9極良	1～9極良	228 ^a	97 ^a	0.7	1.2	1.9	1.3	1.3	131	76	208	113
スノーデントおとは (RM127)	8.2	9.0	207 ^b	75 ^b	1.4	0.3	1.6	2.0	1.7	110	74	183	100

注) ab異符号間に有意差有り

期待される効果

安定かつ安価な自給飼料の増産
収量増による生産費の減少



○ 普及対象・範囲

県内の乳用牛農家, 肉用牛農家

1年目												2年目											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
トウモロコシ一期作 (春播き)				トウモロコシ二期作 (夏播き)				冬播きイネ科牧草				トウモロコシ (遅播き)				秋播き イネ科牧草							

図 遅播きトウモロコシを活用した2年5作の栽培体系例

※遅播きは, ツマジロクサヨトウの被害を受けやすいため, 発芽後5-8葉期に殺虫剤散布